

2022 年の静岡県感染症発生状況のまとめ

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科 倉井華子
静岡薬剤耐性菌制御チーム

2020 年度以降 COVID-19 影響を受け、多くの感染症の発生状況に変化がみられています。県内の感染症発生動向調査から増えた感染症、減った感染症を見てみたいと思います¹⁾。表 1 に示したように、COVID-19 でマスク着用や手指衛生が増えたため、多くの感染症が減っています。特に、呼吸器系感染症を起こすインフルエンザ、肺炎球菌感染症、A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎などの減少は、マスク装着や social distance の遵守の影響が大きいと思います。ただ、マスクをつけられないような年齢層に多い手足口病やヘルパンギーナなどは、大規模な流行が 2022 年に発生しています(図 1)。麻疹や風疹や水痘など流行性ウイルス性疾患が減ったことは海外との往来が減った影響や小児ワクチン接種普及の効果を見ていると思われます。水痘の届け出は 24 時間以上の入院を要する例です。水痘の入院患者報告が減っているのは、平成 26 年(2014 年)10 月から水痘ワクチンが定期接種になったことも影響している可能性があります。

一方、増加した感染症として、性器クラミジア感染症や梅毒などは例年を超える発生状況です。梅毒は年々増加し続け、この 5~6 年で 4~5 倍の陽性者が出ています(表 2)。発生届が円滑にされるようになってきた影響もありますが、複数の性感染症が増加傾向にあることや、保健所などで行う無料検査での陽性率も上昇していることから、感染者自体が増えていると考えられます²⁾。

徐々に COVID-19 感染対策も緩和され、海外との往来も活発となり、今後感染症発生数がどのように変化するのか、注目する必要があります。国民だけではなく医療従事者もコロナには飽きているのが実際だと思いますが、感染症自体への興味や対策を忘れてはいけません。感染症により命を落とす患者、後遺症が残る患者は、一定数発生します。予防できる感染症に対し、しっかり対策をとること、これは医療従事者が呼びかけ続けるべき使命です。

表 1 各感染症発生状況(令和 4 年と過去の比較)

疾病名	R4 報告数(A)	H27-R元 平均(B)	比率 (A)/(B)
感染性胃腸炎	16,747	25231.2	66.4%
手足口病	5,183	6333.4	81.8%
RSウイルス感染症	2,837	2929.4	96.8%
ヘルパンギーナ	1,555	2982.4	52.1%
突発性発しん	1,254	1688	74.3%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	868	12183	7.1%
咽頭結膜熱	679	1916.6	35.4%
性器クラミジア感染症	602	501.6	120.0%
インフルエンザ	483	45800.8	1.1%
水痘	288	1246	23.1%

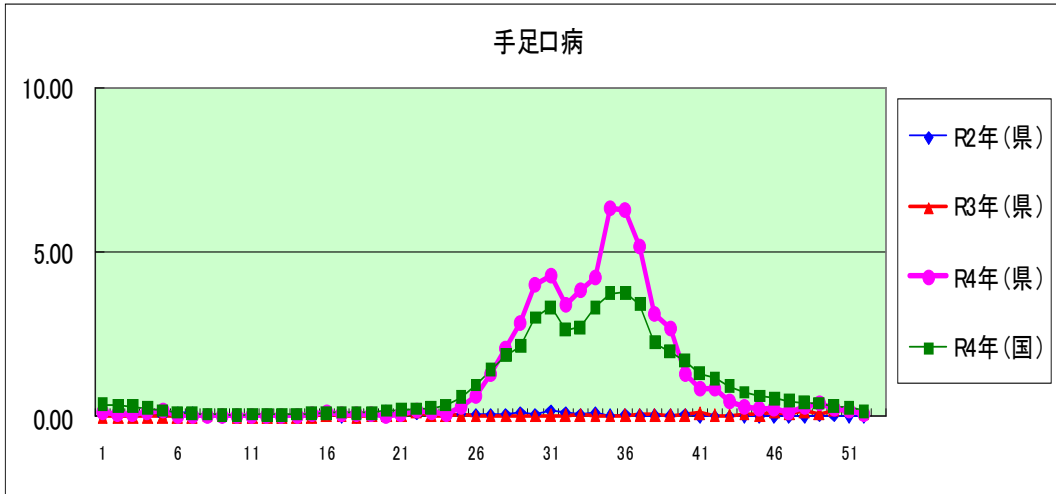


図 1 手足口病の発生状況

表 2 梅毒発生数の年次変化

年	全国(件)	静岡県(件)
H28	4,575	61
H29	5,826	86
H30	7,007	81
R元年	6,642	112
R2	5,867	102
R3	7,978	158
R4	13,073	287

■ 参考資料

1) 静岡県感染症情報センター

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/shippeikansensho/kansensho/1003065/index.html>

2) IDWR 2022 年第 42 号. 梅毒

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-idwrc/11612-idwrc-2242.html>